

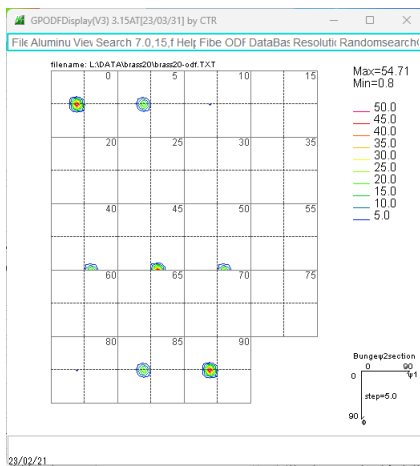
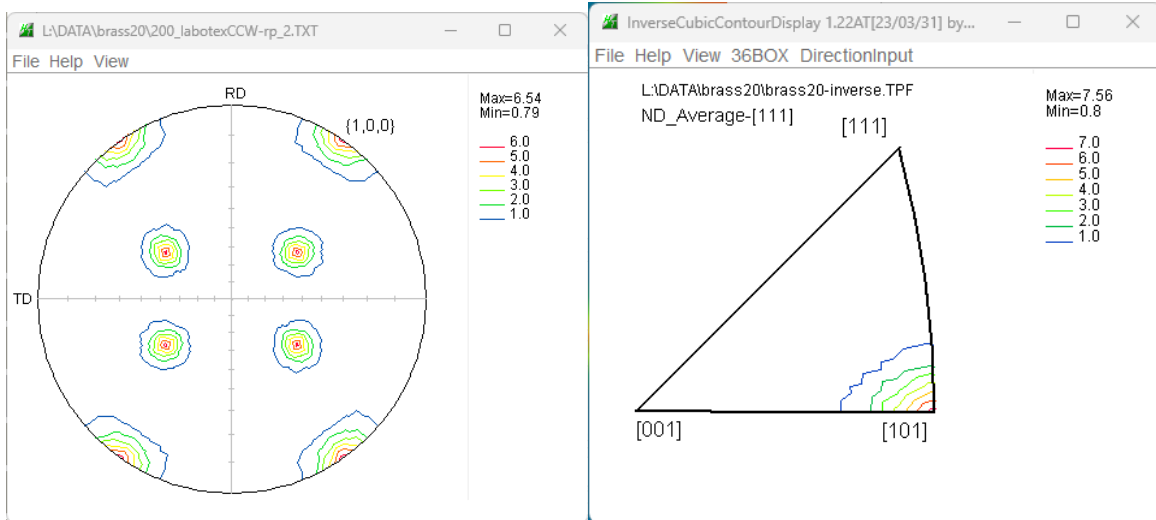
CTRソフトウェア等高線描画の見直し

2023年02月22日

HelperTex Office

概要

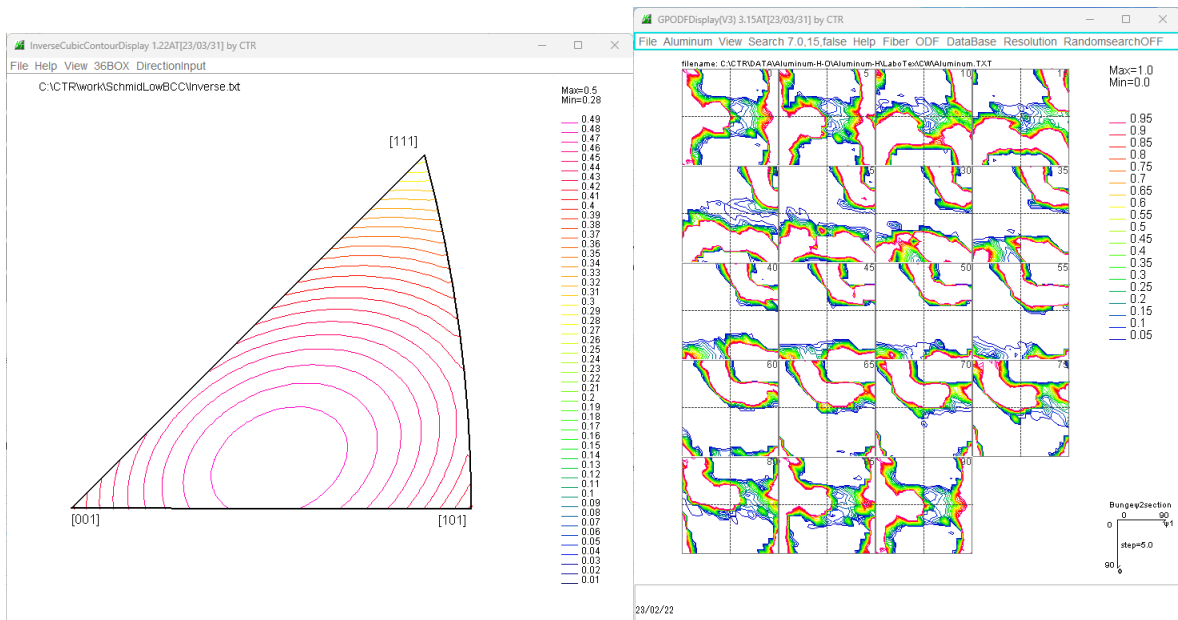
CTR ソフトウェアによる等高線描画は、極点図、逆極点図、ODF 図に等高線描画が採用されている。描画は等間隔で作成していた。



その後、Schmid 因子を扱うと、FCCでは0.3→0.5の表示となり

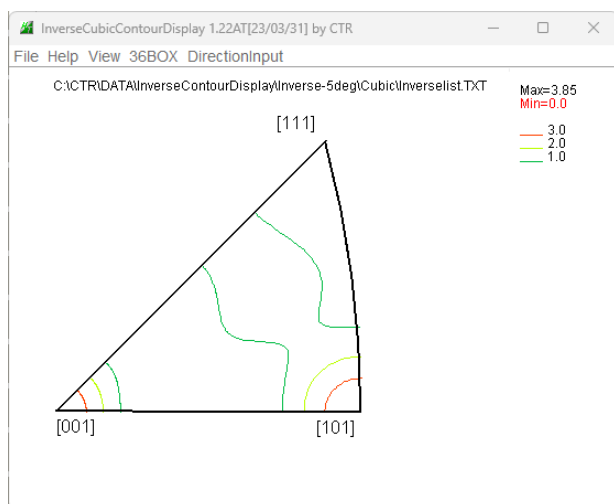
1.0以下のサポートを行なった。

又、random 定量によりODF図の方位密度1.0以下の表示のサポート

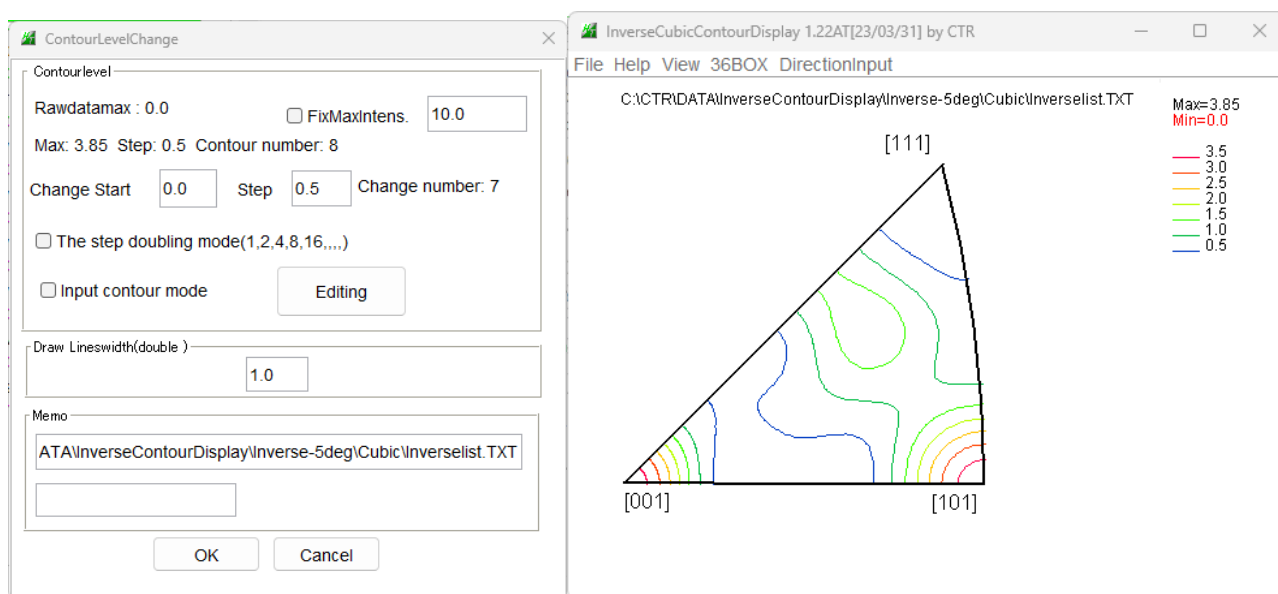


などのサポートにより、等高線表示の見直しが必要になりました

逆極点図を例に説明

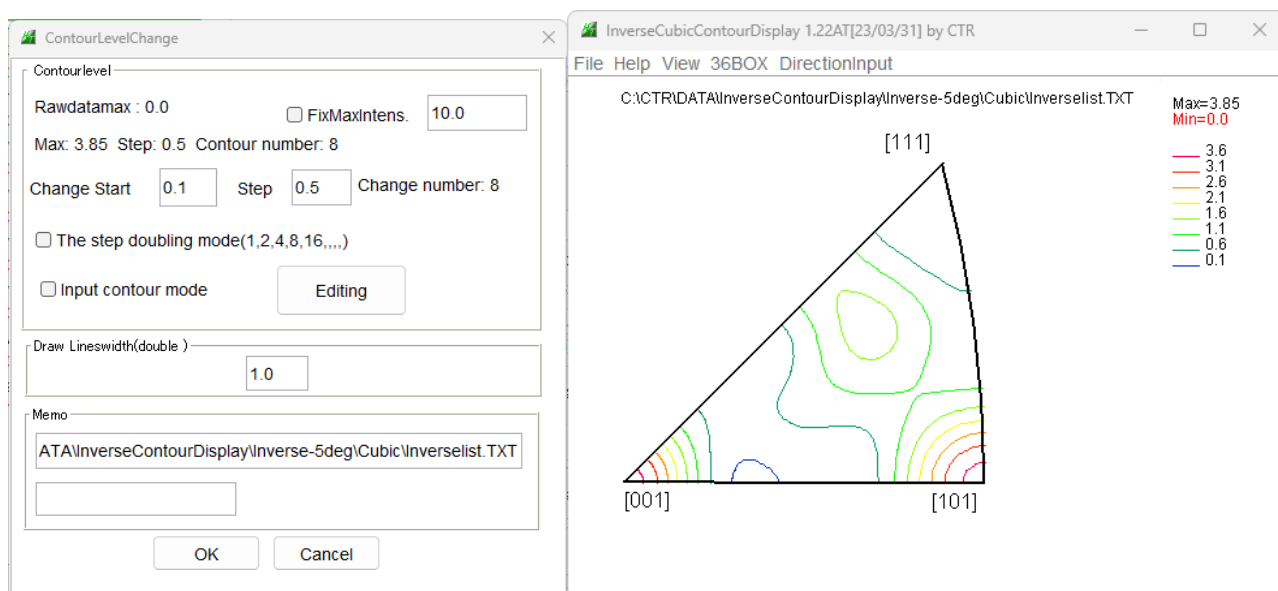


等高線の変更 0.5ステップ



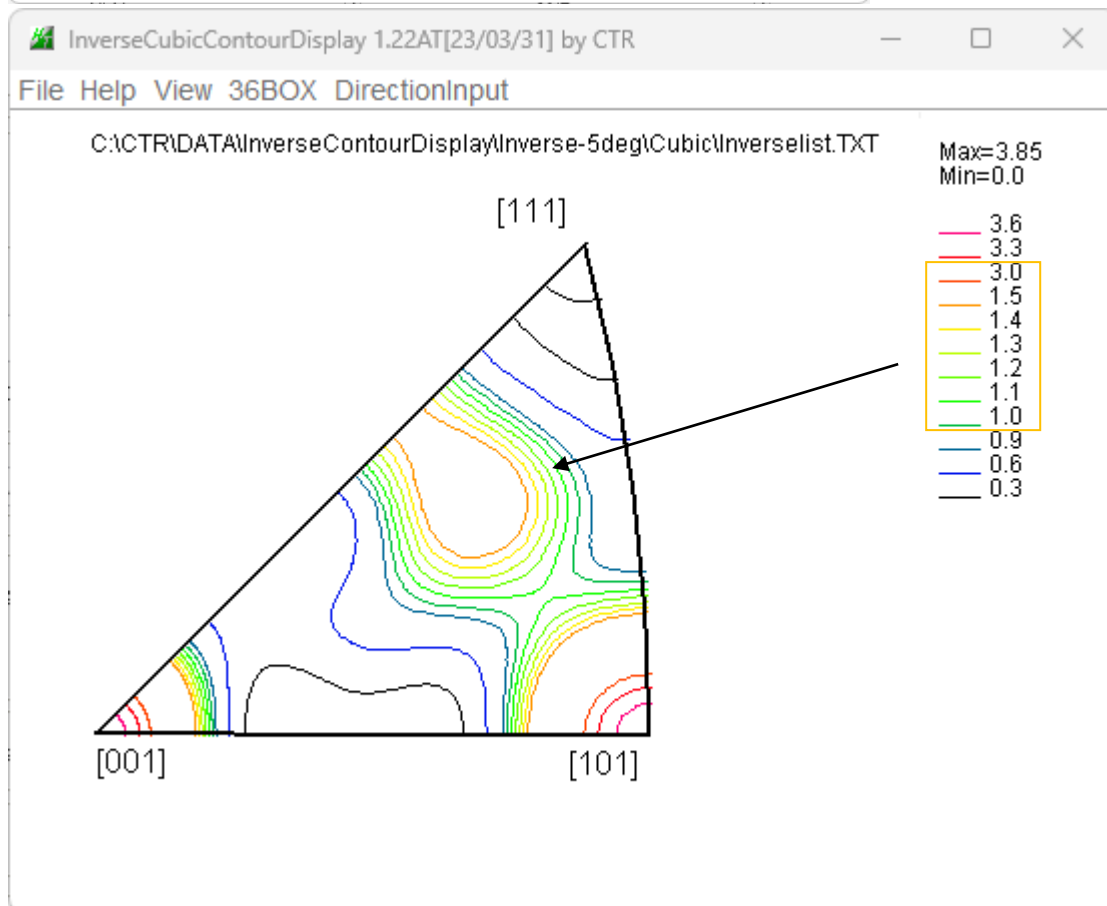
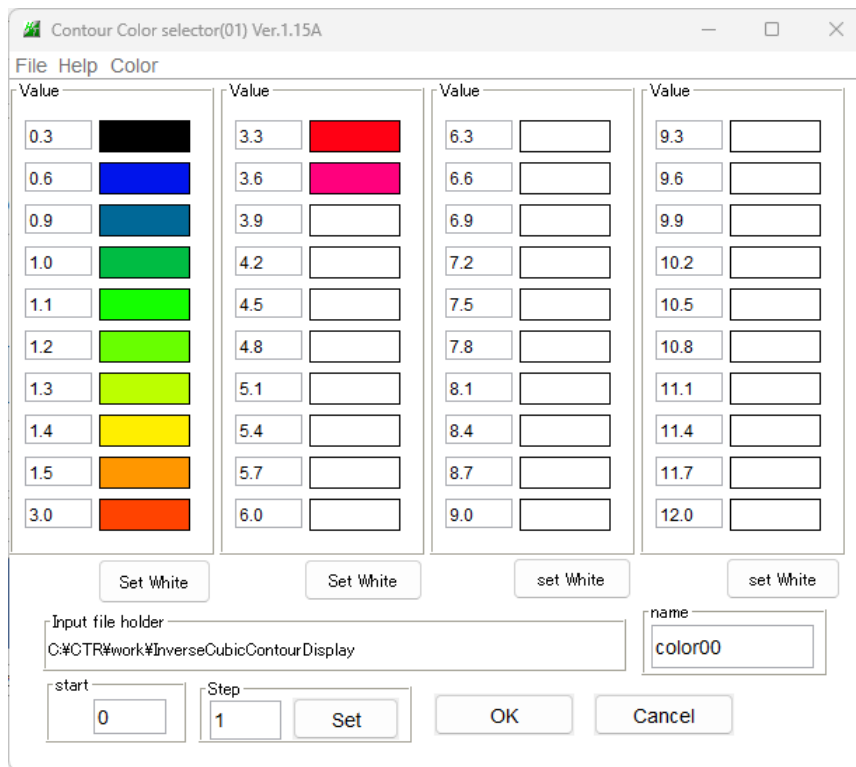
等高線表示は、0.5間隔して表示レベルのサーチが行われる。

等高線描画の開始を0.1とすると、0.1間隔で表示レベルのサーチが行われる。



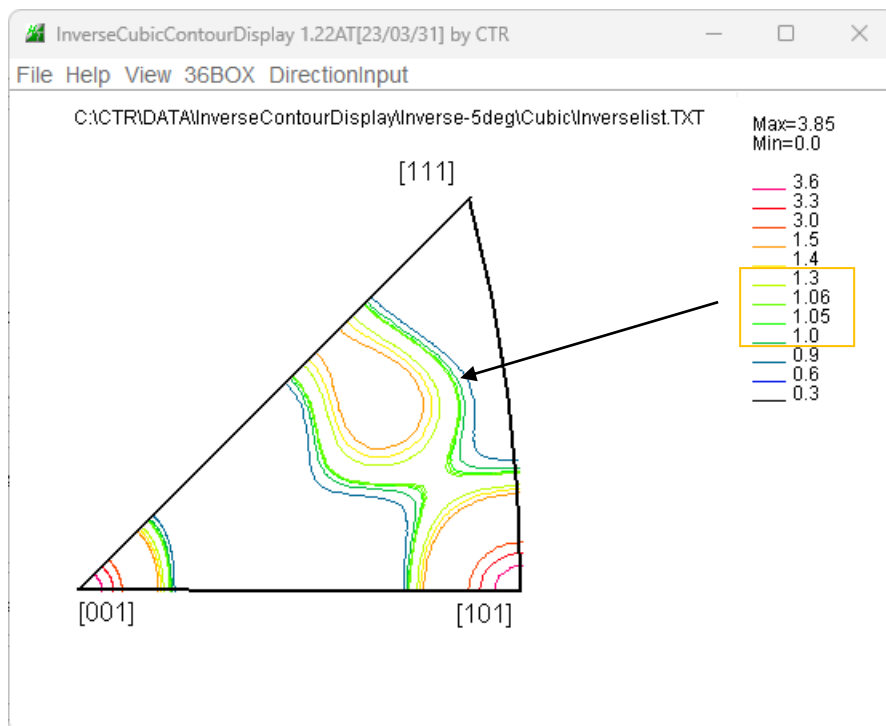
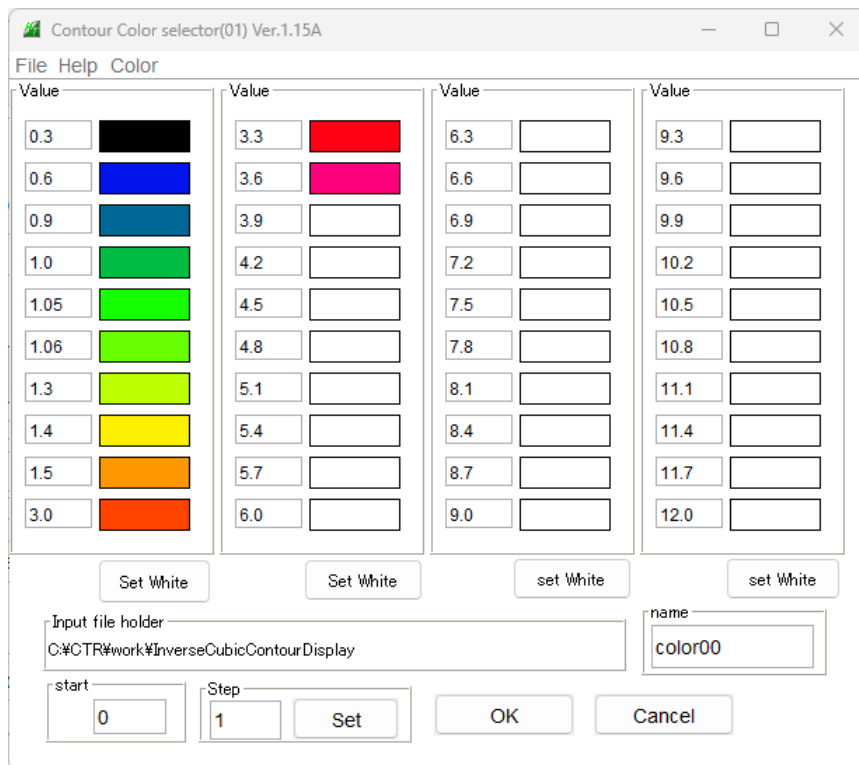
マウスカーソル移動よるリアルタイム表示が遅くなります。

不等間隔の場合



0. 1 間隔で表示レベルのサーチが行われる。

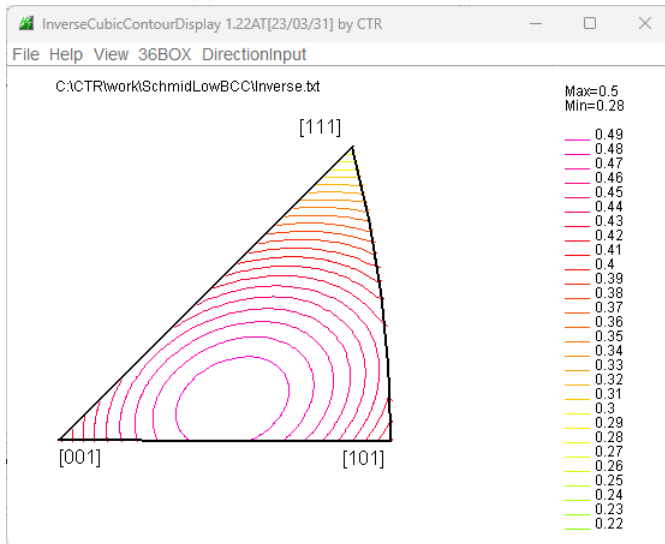
不等間隔 2



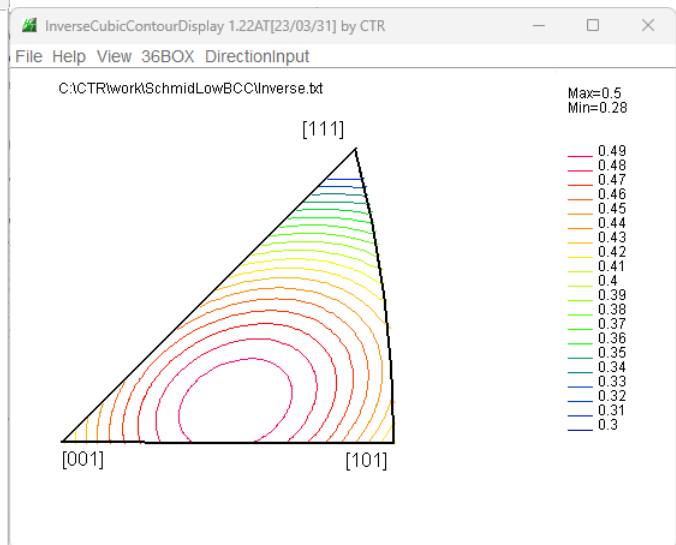
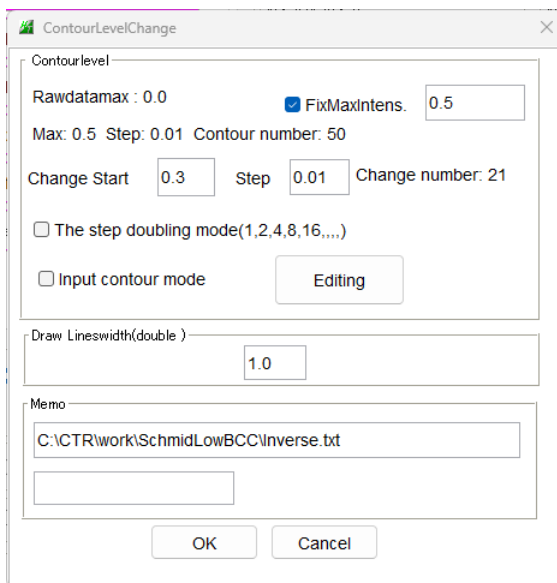
0. 0 1 間隔で表示レベルのサーチが行われる。

Schmid 因子表示

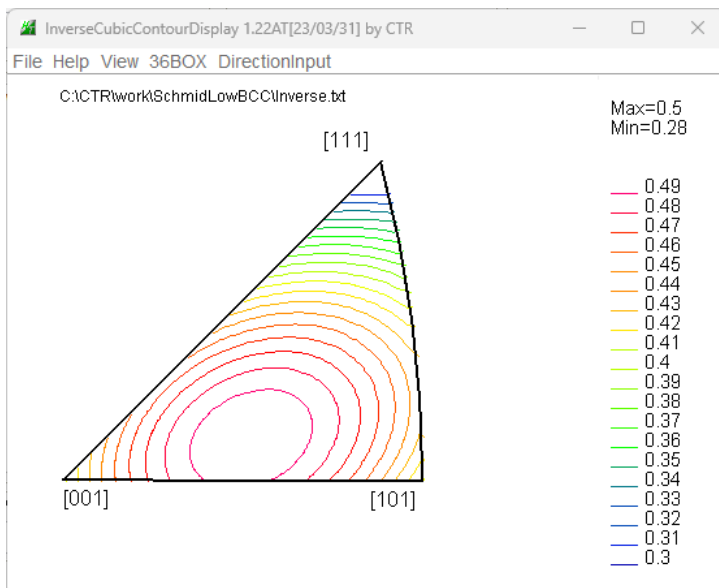
最大値が 1.0 以下の場合、ステップ間隔は 0.01 で表示される。



FCCでは0.3 → 0.5であり、



Font サイズを 12 → 15 に拡大で等高線レベル表示の調整が可能



変更されたソフトウェア

InverseCubicContourDisplay (Ver. 1. 22A)

InverseContourdDisplay (Ver1. 35A)

PoleFigureContourDisplay (Ver. 1. 16A)

GPODFDisplay (Ver. 3. 15A)

myColorChooser (Ver. 1. 15A)

これらのソフトウェアは、TXT2データを読み込むが、CTRソフトウェアの環境下でのみ動作します。